

### (3) 東アジア文化都市事業のスタート

2014年より、新たに東アジア文化都市 East Asian City of Culture 事業がスタートすることになった。これは、1985年に開始された「欧州文化首都」事業に範を取り、アジアの平和と共生、持続的発展に寄与するために、都市の文化交流を進めようとするもので、2011年の日中韓3国文化大臣会合において、日本側から提案し合意を見たものであり、ゆくゆくはアジア全域の都市に広げる構想である。すなわち、日中韓3か国が文化芸術による発展を目指す都市を選定し、その都市において様々な文化芸術イベントを実施するものであり、以下の目的を掲げている。

1. 東アジア域内の相互理解と連帯感の形成を促進する。
2. 東アジアの多様な文化の国際発信力を強化する。
3. 都市の文化的特徴を活かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を図り、継続的に発展する。

事業スタートの2014年には日中韓3国がそれぞれ、東アジア文化都市を選定し、記念の交流事業を展開することとなり、以降は2015年－中国、2016年－韓国、2017年－日本と順番に毎年1都市を選定する運びとなった。初年度は中国が泉州市、韓国が光州広域市、日本がCCNJの幹事代表を務める横浜市が選ばれて、交流事業を開始した。

最初に、開幕式典を開催したのは中国・泉州市であり、2014年2月13日の開幕式には、泉州市市長や光州広域市東アジア文化都市推進委員会委員長、横浜市副市長らが出席して、記者発表と挨拶を行った。14日の記念公演会には、横浜市からは広報親善大使のアイドルグループ「でんぱ組.inc」が登場して、現代日本の若者文化を発信して、聴衆から盛んな拍手を受けた。また、伝統的日本音楽ユニット「岩田ユニット・あべや」による尺八、琴、三味線等による特別公演会は伝統と現代との融合した新たな日本文化を発信して注目された。

同日には東アジア文化都市記念フォーラムも開催され、光州広域市東アジア文化都市推進委員会委員長のジョン・ドンジェ氏が東アジア文化都市事業の背景と歴史的意義について語り、東アジア文化都市実行委員会副委員長の佐々木雅幸氏が、横浜市の創造都市事業の取組の経緯と特徴について発表し、参加した泉州市側の専門家から、熱心な質問が続き、学術交流の重要性が認識された。

引き続き、舞台を移して2月25日には、横浜市での開幕記念イベントに泉州市、光州広域市の代表が参集して、開会式と、ウェイウェイ・ウー（二胡／中国）ベー・チェ Chol（テノール／韓国）らとの競演によるオープニングイベント「三都浪漫～時空を超えた音絵巻」が行われ、多くの聴衆を魅了した。

さらに、3月18日から20日には光州広域市において開幕式、特別公演会、文化施設見学などが行われ、泉州市、横浜市の代表団、アイドルグループ「でんぱ組.inc」や伝統的日本音楽ユニット「岩田ユニット・あべや」の他、3都市のマスコミもそれぞれ交流を行った。

このように、東アジア文化都市は順調な滑り出しで、今後の展開が期待されているのであり、上述したユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）と、創造都市ネットワーク日本（CCNJ）の中間のレベルでの、ネットワークに発展してゆくものと思われる。

N P O 法人都市文化創造機構